

InfoWorks WS Pro v3.5 の新機能

この文書では、以前のバージョンでは使用できなかった、InfoWorks v3.5 の新機能や改良について説明します。

バージョン管理とフィードバック機能が改善

パフォーマンスを改善するため、ランの検証は [水理ランスケジュールビュー](#) にて任意で設定され、エージェントジョブとして実行されるようになりました。完了したランの検証結果は、[Run Control window](#) にレポートされます。

検証や完了状態がわかりやすく表示されるように

ランの検証や完了状態は、シンボルの色に加え、ツールチップ、プロパティフィールド、あるいはポップアップにて表示されるようになりました。

[モデルグループウィンドウ](#) の [ラングループ](#) のシミュレーションアイコンが状態に応じて色分け表示されるようになりました。

-  - 青色 - シミュレーションが進行中です。
-  - 赤いバツ印 - 検証エラー、解析エラー、あるいはデータのエラーを表します。
-  - 緑色 - 検証が終わり、ランが完全に終わっているという状態です。
-  - 黄色 - 不安定、あるいは不完全にランが終わっていることを示します（検証については、完了している場合もあれば完了していないケースもあります）。
-  - オレンジ線に囲まれた緑色 - ランは完全に終わっていますが、検証されていません。
-  - 薄い緑色 - 結果が入手できない状態を示しています。

モデルグループウィンドウにてシミュレーションの名前上、あるいはアイコン上にカーソルを置くと、ポップアップボックスが表示され、ランの状態が表示されます。

モデルグループウィンドウにてシミュレーションを右クリックして表示されるポップアップメニューから「プロパティ」を選択すると、ウィンドウが表示されます。シミュレーションページにて、ランの完了状態や検証状態が表示されます。

ランのコントロールウィンドウには、検証列が含まれ、検証の状態や、検証中に生成された警告数が表示されます。

ダイアログ内のドロップターゲットが改善

[水理ランスケジュールビュー](#)など、ドロップターゲットを含むダイアログが改善されました。ターゲットの枠線が色分け表示されるようになり、必須項目なのかどうか（赤色）、正しく入力されているかどうか（緑色）示されるようになりました。

ライブデータに関するログが生成可能に

ジョブの実行ログファイルの中に、ライブデータに関する情報を含めるかどうか選択できるようになりました。設定は、[テストフィードダイアログ](#) にて行うことが可能です。

オブジェクトのプロパティウィンドウが新しく変更

新しい[オブジェクトプロパティウィンドウ](#) にオブジェクトのプロパティが表示されるようになりました。これにより、ネットワークオブジェクトに関する全データを構造的に表示して確認することが可能になりました。オブジェクトの全プロパティを含んだ、新しいスタイルの [プロパティシート](#) となりました。

ジオプラン上でのオブジェクトの選択が容易に

マウスポインターを使用してジオプラン上に四角のボックスを描画し、その中にある膳オブジェクトを選択できるようになりました。

ユーザーテキストとユーザーナンバーフィールドが増加

ユーザーテキストとユーザーナンバーフィールドの数がそれぞれ15まで増加しました。フィールド名を独自に変更するには [Editing global user defined field names](#) トピックをご覧ください。

ランに対しコア数の制限が可能に

[Schedule Run\(s\) dialog](#) にてランに対して使用する最大のコア数を制限することが可能になりました。これにより、例えば重要リンク分析など大規模な計算を実行している間も、一部のコアを使用可能な状態にすることが可能となりました。